

I E A 石油市場レポートの概要（2017年4月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2017年の世界の石油需要の伸びは130万バレル/日と見込まれ、これは2年連続の低下であり、また、第1四半期の予測より弱い需要に伴って、我々の以前の予測を少し下回るものとなった。ロシアとインドでの需要の伸びが抑えられたことと、OECD諸国での需要の勢いが弱いことが主要因である。
2. 3月の世界の石油供給は、OPEC加盟国・非加盟国での生産減と減産合意の遵守向上により、75.5万バレル/日減少した。他方で、OPEC非加盟国の生産は再び増加に向かっている（昨年の79万バレル/日の減少から回復し、2017年に48.5万バレル/日の成長が見込まれている）。
3. 3月のOPEC加盟国の原油生産は36.5万バレル/日減少し、3,168万バレル/日となった（減産合意から免除されているナイジェリア・リビアの2カ国と、サウジアラビアの生産減が主因）。OPEC加盟国の本年第1四半期の3,190万バレル/日の生産は、需要を24万バレル/日下回るもの。この需要は第2四半期には3,290万バレル/日に上昇し、それはOPEC加盟国が減産合意を遵守し続ける場合、世界的な備蓄の取り崩しが更に進むことを示唆する。
4. 2月のOECD加盟国の石油民間在庫は、緩やかに減少し、3月には更に減少することが予測される。しかしながら、1月の大きな在庫増加によって、本年第1四半期の在庫は3,850万バレル（42.5万バレル/日）増加したと見込んでいる。同時期に、海外や小規模な在庫については32.5万バレル/日減少したと見込まれる。
5. 3月に原油価格は平均で3ドル/バレル以上下落したが、4月初めには5ドル/バレル上昇した。投資管理者達は3月の価格下落の中で原油先物の買いポジションを2億バレル減少させた。石油製品価格については、精製施設のメンテナンス時期の中でも回復が見られなかった。
6. 石油精製量については、2017年第1四半期が前年同期比でほとんど増加しなかったが、第2四半期については前年同期比で150万バレル/日に上昇するだろう。石油精製の需要は3月から7月の間で350万バレル/日上昇するだろう（増加分のほとんどは大西洋と中東）。